

新堀秀一
SHUICHI NIBORI

moving box

設計：新堀建築事務所



上—1階水の部屋 水まわりを見る。左奥が玄関、右手前はキッチン
下左—2階空の部屋
下右—1階テラスから階段を見る



この住宅は、都心から程近い駅前の商店街から道を1本入った場所で、建物が密集する中に残されたかのような、若干12坪の狭小地に建っています。建主は、元プロサーファーのビジネスマンで、親の代から住み続けてきた家の建て替えに際して、多忙な生活から帰ってからの休息地（オアシス）として、生活感をなくしたシンプルなスタイルが求められました。

建物が隣接する中で、プライバシーを保ちつつ、どう光を採り入れるかが最初の課題でした。そこで重箱のように箱を3つ重ね、真ん中の箱を1つずらすという、単純な操作によって問題を解決する方法を思いつきました。つまり壁を1度閉じることにより、外からの視界を遮り、ずらしたところから採光、通風を得る。こうしてプライバシーを保つと同時に、空間にも奥行きを与える。そうした操作により、建築全体も純粋な結晶のような形を得ることができました。

タラップ状の階段を上り、玄関を入ると、閉鎖的な外観からは想像もつかない、明るく開放的な内部空間が存在しています。三方をガラスによって囲まれた空間は、階段の吹抜けから上下の階へとつながる光の箱となっていて、そこでため込んだ光を奥へと拡散するとともに、移りゆく光の変化を映し出します。

各階はワンルームの箱になっていて、生活の中心ともいえる水まわりは、狭い空間を広く見せるため、極力間仕切りをなくしガラス張りにしています。

外部テラスは、内部空間と一体化して扱われ、建具枠をなくしたガラスのパーティションは、コンクリートに埋め込まれたディテールにより存在を消しています。テラスの壁にもフックを取り付け、夏の暑い日には外でシャワーを浴びられるよう、生活空間として、より活用できるようにしています。

コンパクトな設計をする上では、設備

機器の選定は重要な要素です。今回採用したサティスは、機能性とデザイン性を兼ね備えていると思います。色は白の人工大理石の床とコンクリート打ち放しの壁に合うように、シンプルで上品なピュアホワイトを選びました。周りの暖房機器の色もサティスに合わせて塗装色を指定しています。

わずか4m四方の空間では、目に入る仕上げやディテールにごまかしがきかず、スケール感も小さくする必要があり、それはまるで茶室の設計のようなもので、小さな空間にいかに無限の広がりを与えられるかを考えました。単純な形態に、単純な仕掛けを与えることで、6坪の空間に豊かさを持たせたとしたら、この住宅は現代都市住居のプロトタイプとしての可能性を持てるのではないかと考えています。*

にいぼり・しゅういち—建築家/1966年生まれ。1990年、千葉大学工学部建築学科卒業。1990～92年、齋藤裕建築研究所。1993年から新堀建築事務所。1996年から同代表。主な作品：jolly (1999)、kumonoie (2004) など。

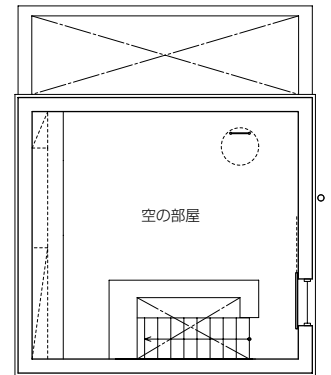


北面外観

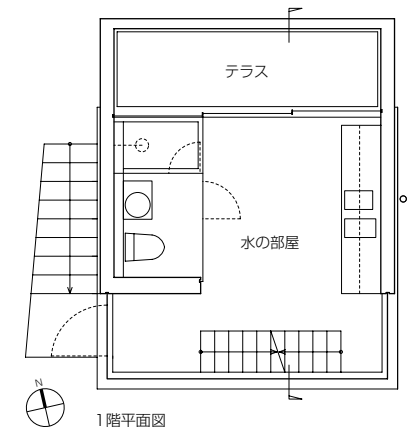
■建築概要

名称：moving box
所在地：東京都大田区
家族構成：1人
敷地面積：42.49㎡
建築面積：25.43㎡
延床面積：63.23㎡
規模：地下1階、地上2階
構造：RC造、一部S造
工期：2005.5～2005.12
設計：新堀建築事務所
施工：サンユー建設

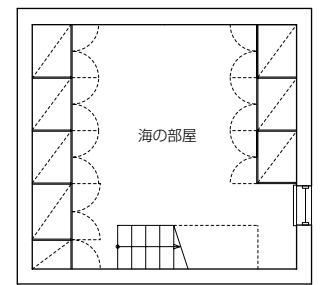
●INAX使用商品 ●便器：サティス S5タイプ



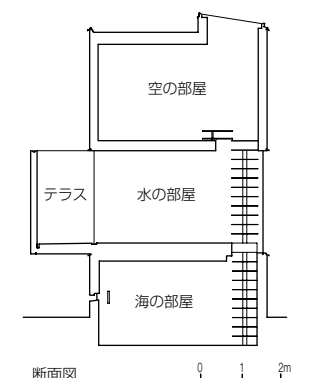
2階平面図



1階平面図



地階平面図



断面図